

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/7/20 実施)～

参加者: 5名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

雲が低く垂れこめて、蒸し暑い何となく薄暗い日でしたが、ミンミンゼミの声が聞こえてきました。樹林の中は、さらに薄暗いですが、そんな中で咲くソクズ、ヤブミョウガの白い花がとても目立ちました。

草むらでは、セリの白い花が見られ、オカトラノオの白い花もありました。こんな日には、白い花がさわやかでした。



ヤブミョウガ



セリ

草むらにはもう一つ白いもの、ナガコガネグモの小さい円盤状の隠れ帯が、あちこちにあって、怒らせて網を揺すらせてみたり、ショウリョウバッタ(?)の子どもがかかるのをみたり楽しかったですよ。

草むらにコガネグモやナガコガネグモの巣がやたらと目についた。主はカクレオビにいて(隠れているようには見えないが)我々には巣をゆすって威嚇する様が面白い。草むらには他の昆虫が飛び交っていて結構巣にかかるから見ていて飽きない。カクレオビが強調されているので網の他の部分には餌食の注意が向かないのかなあ。



ナガコガネグモ

今年の梅雨はまだ開けておらず天候も不順だが、ミンミンゼミが鳴いた。湿った草むらには小さなショウリョウバッタ、コバネイナゴがたくさんとびかっていた。そして低い草丈の間のあちこちにも蜘蛛の巣があった。ナガコガネグモ、コガネグモ、ジョロウグモ、イオウイロハシリグモなどを見る。シマヘビも草むらにひそんでいた。先月見かけなかったハグロトンボは一匹確認。



ハグロトンボ



ショウリョウバッタ

冬の間刈り取られた草むらにアカバナがのびていた。(2か所確認) 土の中には様々な種が眠っており、条件がうまく合致すると目覚めるのだろうか。冬季、植物が伸びていない状態での草刈は地面に陽の光を当てる意味で有効なのかなと感じる。広場のムクゲに一匹のラミーカミキリを見た。写真に取ろうとしたらとんでしまったが、今年も生息しているらしい。近年外来種のカミキリが進出しているらしいので、ラミーを見かけることは歓迎すべきではないのだろうが、ラミー発見！と思わず声が出た。

先日の水田は深々と水が張られており、ウキクサは1週間前とは違い根が水中に浮いた状態になっていた。今日は水が落とされていてウキクサはほとんどが地面に接した状態であった。浮いていようが、水がなくなろうがウキクサそのものは見た目には変化がない。5 cm位の根がちゃんと土に根を下ろすのが常かと思っていたが、水中に浮こうが土の上に折り畳まれようが一向に構わないようなのは驚きである。但し深く水が張られて浮いたり、水がなくなると言っても1日かそこらの事だから、これ位ではウキクサ自体に変化は出ないのかもしれない。前回アオコ対策になるとか水温上昇対策とかに言及したが総合的な見解や如何と思いついている。

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/8/17 実施)～

参加者: 6名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

アカバナが一本だけ、大きく伸びた株に、ピンクの小さな花を沢山咲かせてました。赤くない花なのに、なんでアカバナかと思ってたら、葉が秋に赤くなるからと図鑑に書いてあって今まで読んでなかったんですね。

タコノアシが少し減ってるかなと、春先に気になってましたが、シロバナサクラタデの中にかかなりの数で花を咲かせてました。大丈夫そうです。



アカバナ



タコノアシ

手作り木道の脇にホタルイらしきものが、毎年(去年は見なかったけど)数本の花茎を伸ばしてましたが、今年は少し株が大きくなったのか花茎がふえてました。名前の由来に、蛍がいそうな所に生えるからと書いてあって嬉しかったんですが、田んぼのやっかいな雑草のようで、がっかりです。でも、この公園では、今のところ一か所にしか出てないので大事にしています。

イグサに関して

クサイ、ホタルイ、イグサの3種類に出会った。イグサとクサイはイグサ科、ホタルイはカヤツリグサ科であるが、イグサに関する種類はたくさんあるらしい。イグサは正式には「イ」と呼称し最も短い標準和名だそう。イグサには記憶に残る思い出がある。中学生の頃の記憶と思うが、鹿児島本線の熊本駅から八代駅に向かう車窓からイグサの田圃が広く見え、その田圃はどこまでもどこまでも続いていた記憶が今も残っている。調べてみるとイグサは外国産も多いが日本での生産量は熊本県が8、9割を占めているとのこと。記憶の強烈さは本物だったのではないかと改めて記憶が鮮明になった。



イ



アオバハゴロモ

アオバハゴロモに関して

木の小枝に一行に数匹が並んで止まっている姿は非常に美しい。大きさは1 cmほどあり、色は全体に白に近い薄緑色で後ろの縁の部分には薄い赤色で縁取られているように見える。見た目の可愛さから想像できなかったが、ネットによると農業害虫（ミカンや茶など）でもあるらしい。

いつもの夏にくらべたら、アシの伸びが悪いように思う。いつも3メートルくらいにのびるのに、なぜだろうと書いて、去年の記録を見たら同じことをかいていた。アレ？一方マコモは花をつけ、元気に伸びている。タカサブロウの花を見る。夏だな。カントウヨメナも早いものが咲きだした。先月見たアカバナは可憐な花をつけていた。マツカサススキがあちこちに見られるが数が増えたのだろう。ミゾソバ、コブナグサは葉を元気一杯にのぼして、その間に白いセリの花が清楚だ。ホタルイも増えたようだ。小穂の先にのびているのは苞とのことだが、まるで茎の途中に小穂がついているように見える。



マツカサススキ



右がナツアカネで左はアキアカネ？

ギンヤンマ、シオカラ、ノシメが盛んにとびかう。広場から湿地に下る堀のロープにトンボが沢山とまっております、捕まえて観察すると、ナツアカネ、アキアカネが混じっていた。アキアカネは山へ行きそびれたのだろうか。

7月の長雨の時、今年はまだすでに田んぼにアキアカネが舞っており、山へ行っていないらしいとの新聞記事があり、実際私も田んぼに舞うアキアカネらしきトンボの群れをみた。今根本内にいるアキアカネはどうなのか？トンボに聞いてみたかった。

9月の湿地の観察会は、、、

9月21日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）